

全国高校生英語ディベート大会 (World Schools Debating Championships 認定大会) について

1. 主 催

全国高校英語ディベート連盟 (All Japan High School English Debate Association: HEnDA)

2. 参加条件

- ・日本の高等学校在学者または高等専門学校の3年までに在学の生徒で、「Make-Friends 憲章」(省略)を厳守できる生徒。
- ・英語のネイティブ・スピーカーは不可。
- ・以下の海外生活経験者等の条件に該当する者はチームに2名まで。
 - (1) 英語を第1言語とする国で12ヶ月以上滞在経験のある生徒 (就学前の滞在は不問)
 - (2) 英語を第2言語とする国の出身である生徒 (就学前の滞在は不問)
 - (3) 家庭で常用的に英語を使っている生徒
 ただし、該当生徒で各試合に出場できるのは1名までとする。(試合ごとの変更は可能)

3. 過去の大会の参加状況

大会回	年度	参加都道府県	参加学校数	参加チーム数	参加選手数	開催場所	世界大会
プレ大会	2005	11都県	26校	40チーム	160名	岐阜大学	
第1回	2006	17都府県	38校	52チーム	208名	岐阜聖徳学園大学	韓国
第2回	2007	22都道府県	50校	64に固定	257名	名古屋学院大学	アメリカ
第3回	2008	24都道府県	62校	62チーム	276名	岐阜聖徳学園大学	ギリシャ
第4回	2009	29都道府県	64校	64チーム	295名	東京国際大学	カタール

4. 都道府県大会の開催状況 (2010年4月現在)

北海道	1回	長野	17回	大阪	2回	大分	2回
茨城	1回	静岡	2回	兵庫	3回	熊本	5回
栃木	2回	愛知	2回	広島	1回	宮崎	7回
埼玉	5回	岐阜	8回	高知	11回	鹿児島	12回
千葉	1回	石川	4回	福岡	8回	沖縄	10回
東京	13回	福井	2回	佐賀	4回	九州地区大会	5回
神奈川	1回	滋賀	2回	長崎	5回	四国地区大会	2010開催予定

○本年度開催：26都道府県 (実施率55.3%)

○昨年度開催：21都府県 (実施率44.7%)

○一昨年開催：14都県 (実施率29.8%)

5. 過去の大会概要及び結果

■第1回大会

〔論題〕 “Japan should make English its second official language.”

(日本は英語を公用語にすべきである。是か非か。)

〔結果〕 優勝 加藤学園暁秀高校 A チーム (静岡県) 準優勝 神戸市立葺合高校 (兵庫県)

第3位 上田染谷丘高校 A (長野県) 慶應義塾湘南藤沢高等部 A (神奈川県)

【世界大会】 第19回世界高校生ディベート大会 (ソウル) に、優勝校の加藤学園暁秀高校 (静岡県) が初の日本代表として参加。New Comer の部にてベストディベーター賞受賞。

■第2回大会

〔論題〕 “All elementary and secondary schools in Japan should have classes on Saturdays.”

(日本のすべての小・中・高等学校は、週6日制にすべきである。是か非か。)

〔結果〕 優勝 春日部女子高校 (埼玉県) 準優勝 慶應湘南藤沢高校 (神奈川県)

第3位 加藤学園暁秀高校 (静岡県) 伊奈学園総合高校 (埼玉県)

【世界大会】優勝校 春日部女子高校 (埼玉県) が2008年9月ワシントンDCでの大会に参加。

■第3回大会

〔論題〕 “Japan should lower the age of adulthood to 18.”

(日本は、法的な成人年齢を18歳に引き下げるべきである。是か、非か。)

〔結果〕 優勝 栄光学園学校 (神奈川県) 準優勝 伊奈学園総合高校 (埼玉県)

第3位 慶應湘南藤沢高等部 (静岡県) 南山高等学校女子部 (埼玉県)

【世界大会】優勝校 栄光学園学校 (神奈川県) が2009年2月アテネでの大会に参加。

■第4回大会

〔論題〕 “The Japanese Government should prohibit worker dispatching.”

(日本国政府は、派遣労働を禁止すべきである。是か、非か。)

〔結果〕 優勝 伊那北高校 (長野県) 準優勝 創価高校 (東京都)

第3位 栄光学園高校 (神奈川県) 聖マリア女学院高校 (岐阜県)

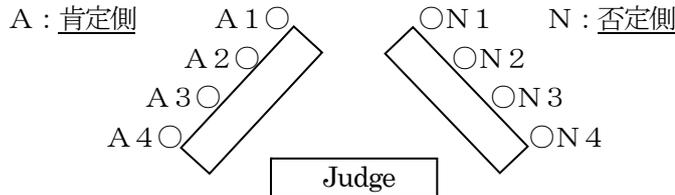
【世界大会】優勝校 伊那北高校 (長野県) が2010年2月ドーハでの大会に参加。

■第5回大会 (12月18・19日実施予定)

〔論題〕 “Japan should significantly relax its immigration policies.”

(日本は、移民政策を大幅に緩和すべきである。是か非か。)

6. 試合フォーマット



発言者	役割と内容	時間
A1	①肯定側立論 (メリットは2点まで出せる)	4分
	準備時間	1分
N4→A1	②否定側質疑 (否定側からの質問に、肯定側A1が答える)	3分
N1	③否定側立論 (デメリットは2点まで出せる)	4分
	準備時間	1分
A4→N1	④肯定側質疑 (肯定側からの質問に、否定側N1が答える)	3分
	準備時間	2分
N2	⑤否定側アタック (肯定側の立論のみに対して)	2分
A3→N2	⑥そのアタックへの質問 (肯定側A3からの質問に否定側N2が答える)	2分
A2	⑦肯定側アタック (否定側の立論のみに対して)	2分
N3→A2	⑧そのアタックへの質問 (否定側N3からの質問に肯定側A2が答える)	2分
	準備時間	2分
A3	⑨肯定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	2分
N3	⑩否定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	2分
	準備時間	2分
A4	⑪肯定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	2分
N4	⑫否定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	2分

計 38 分